

(2019 年度) 第 8 回応用地形判読士資格検定試験 二次試験問題

〔午前の部〕

実技試験の注意事項

- (1) 実技試験の実施日時は、2019 年 11 月 30 日（土）の 10 時 0 分から 15 時 0 分までとする。
 - ・ 午前の部：10 時 0 分から 12 時 0 分までの 2 時間.
 - ・ 午後の部：13 時 0 分から 15 時 0 分までの 2 時間.
- (2) 試験開始後 1 時間は、退場を認めない。
- (3) 試験問題には、国土地理院発行の地形図と空中写真を使用している。地形図は、注記がある場合を除いて、上を北としている。
- (4) 解答は、図示を求める問題に対しては〔地形図〕と〔記号凡例用紙〕に、記述を求める問題に対しては〔マス目入り答案用紙〕に、それぞれ記入すること。
- ◇ 〔地形図〕と〔記号凡例用紙〕および〔マス目入り答案用紙〕には、受験番号を必ず記入すること。 受験番号が未記入であったり間違えている答案は、採点からすべて除外し、不合格とする。
- (5) 指定した読図範囲について、問題にしたがい読図すること。実体視できる範囲については、読図に加えて空中写真判読を行うこと。

これらの結果は、その地形図上に図示すること。図示するにあたり、地形種の輪郭は明確に記入すること。ただし、地形種は、地形判読記号、色、模様などにより判別できる程度としてもよい。
- (6) 地形図に記入する地形判読記号、色、模様などは、特に定めない。ただし、使用した地形判読記号などは、別に配布してある〔記号凡例用紙〕に記入すること。
- (7) 試験の開始にあたり、試験問題の欠落や印刷に不鮮明な箇所がないことを確認すること。
- (8) 試験開始後は、参考書籍のほか、通信機器類および電子機器類（ウェアラブル端末（例えばスマートウォッチ）などを含む）の使用は一切禁じる。また、携帯電話など音を発生させる機器類は、必ず電源を切ること。
- (9) この注意事項の説明後は、原則として質問に応じない。
- (10) 試験終了後、この問題用紙は持ち帰ってもよい。

ただし、①地形図、②記号凡例用紙、③マス目入り答案用紙、④空中写真は、机の上に残すこと。

◇ 〔地形図〕と〔記号凡例用紙〕および〔マス目入り答案用紙〕には、

受験番号 を必ず記入すること。

《問題》

1. 次の a) と b) の質問について、地形図上に図示しなさい。
 - a) 地形図に示す全域のうち平野について、地形の成因の大きな違いに着目して 2 地域に区分し、その境界を図示せよ。
 - b) 地形図に実線で示した範囲について、地形図読図と空中写真判読によって地形を分類し、その結果を地形図上に図示せよ。
特に、地形の成因に重点をおいて、地形を分類すること。
地形分類記号などは任意に設定して、別紙の〔記号凡例用紙〕に記入しなさい。

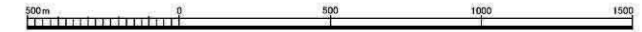
2. 次の a) と b) の質問に、マス目入り答案用紙に合計 800 字を超えないように記述しなさい。
必要に応じ、地形図中の参照する地点や地域に、記号や番号などを付してもよい。
 - a) 1. a) で区分した 2 地域のそれぞれについて、地形の形成プロセスを説明せよ。
 - b) 矢部川本川では、洪水の際に河川堤防が決壊した事例がある。地形判読から堤防の決壊箇所を 1 箇所推定して、その場所を地形図上に記号で示せ。
また、決壊箇所を推定した応用地形学的な根拠と、想定される決壊のメカニズムを説明せよ。

<参考>

地形図 国土地理院「電子地形図 25000」／出題範囲は図示の緯度・経度を参照

(データ取得日：2019年10月22日)

空中写真 整理番号：KU-97-2X / コース番号：C6 / 写真番号：7, 8, 9



130° 23' 49.99"
33° 9' 37.73"

130° 29' 47.03"
33° 9' 37.72"



130° 23' 50.10"
33° 6' 26.99"

130° 29' 46.92"
33° 6' 26.99"

1. 投影はユニバーサル横メルカトル図法、座標帯は第52帯、中央子午線は東経129°
2. 図郭に付した短線は経緯度差1分ごとの目盛
3. 高さの基準は東京湾の平均海面
4. 等高線及び等深線の間隔は10メートル
5. 磁気偏角は西偏約7° 0'
6. 図式は平成24年電子地形図25000図式
7. 本図上部の枠内には、この地図の購入者が入力したものをそのまま記載しています

令和元年10月22日 調製

著作権所有兼発行者 国土地理院

130.45-33.13-A3-y-20191022-081725-0000